

No.25
2019
8/27



はちおうじ

JR東労組
八王子地本
八王子地本
ホームページ
「東労組八王子」で検索



八地申第29号 八王子駅構内で発生した架線切断に対し、安全を最優先にした列車運行を求める申し入れ団体交渉 **第3回交渉 8月22日開催**

グループ安全計画2023「安全を経営のトッププライオリティ」「危ないと思ったら列車を止める！」は職場へ浸透していない！

乗務員の「全線抑止！」依頼に対し、当該乗務員に連絡もせずに隣接線の運転再開指示！

【2019年3月16日八王子駅架線切断 併発事故までの時系列】

21:08 中央線 2049T 爆発音と閃光により停車 運転士より指令へ「八王子に入る全ての列車を抑止」依頼
21:14 八高線・横浜線の運転再開指示 ※2049T 運転士には連絡なし
21:21 八高線 2177E 切れた架線に衝撃 併発事故発生！



会社が回答した原因

- ・ 指令員と指令長の意思疎通ができていなかった。
- ・ 指令員は指令長が当該乗務員との無線交信を全て聞いており、全線抑止と認識していると思った。
- ・ 指令長は「火花」「爆発音」「HP再遮断」は、車両故障と思い込んだ。架線停電しているのは中央線のみで、隣接線には支障なしと判断し、隣接線の運転再開指示。

会社が回答した背後要因

休憩時間帯で半分の指令員だった。

会社が回答した対策

指令内で復唱を行う、どんな状況でも確認を行う。決めつけない。明確に並走線区の確認を行う。基本的なことができていなかった。これまでも行ってきたが、命を預かっているという重みを認識していく。

背後要因について深められていない！具体的な対策がなく、精神論であり再発防止になっていない！

組合主張

中央線の当該2049Tの乗務員に状況の確認もせずに隣接線の運転再開を指示し、八高線2177Eが切れた架線に衝撃したことは、併発事故という認識はあるのか。

会社回答

思い込みがなく、指令内で情報共有できていれば併発事故は防ぐことができた。教訓としていく。

第2回交渉では「当時は正しい判断だった」から、今交渉では「併発事故」という認識に立つ！

川崎事故では、全系統の社員へ教育を行った。今回「現地の情報に基づき、安全を優先とした判断」を行なえなかった事象であり、2017年12月に発生した東海道・山陽新幹線の「のぞみ34号」台車枠に亀裂が生じる重大インシデントと、同様の事象であり、全系統の社員へ教訓として教育すべきである。

3月20日にプレスリリースを行った。概況で原因、対策、メカニズムを伝えている。指令室内の情報共有が課題であり、指令室内で教育訓練を行った。他の職場については、検討したい。

教育訓練を検討することを確認！

現場の判断を尊重し状況を的確に把握して、安全の担保が取れるまで運転再開を行わないこと。

現場の声をしっかり聞き、状況を正しく把握したのちに運転再開指示を行うように指導・教育を行っていく。

現場の判断を尊重することを確認！

指令員や指令長だけの問題に切り縮めては再発防止にならない！

抑止の在り方について職場で議論を深め、我々から安全な鉄道を築きあげよう！